

「話を聞くこと」について（一部抜粋、下線筆者）

	<p>保育所保育指針 (平成11年改定)</p>	<p>幼稚園教育要領 (平成12年4月1日施行) 幼稚園教育要領解説 第2章 ねらい及び内容 第2節 各領域に示す事項</p>	<p>小学校学習指導要領 (平成14年4月1日施行) 第1節 国語 〔第1学年及び第2学年〕 小学校学習指導要領解説 国語編 第3章 各領域の目標と内容</p>
<p>目標 ねらい</p>	<p>第1章 総 則 1 保育の原理 (1) 保育の目標 才 生活の中で、言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり、聞いたりする態度や豊かな言葉を養うこと。 第8章 4歳児の保育の内容 3 ねらい (13) 人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。 第9章 5歳児の保育の内容 3 ねらい (12) 様々な機会や場で活発に話したり、聞いたりして、生活の中で適切に言葉を使う。 第10章 6歳児の保育の内容 3 ねらい (13) 自分の経験したこと、考えたことなどを適切な言葉で表現し、相手と伝え合う楽しさを味わう。 (14) 人と話し合うことや、身近な文字に関心を深め、読んだりすることの楽しさを味わう。</p>	<p>(2) <u>人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</u> 4 言葉の獲得に関する領域「言葉」 1 ねらい <u>自分の話を聞いてもらうことにより、人の話も聞こうとする気持ちになり、このような過程を経て、人の話を聞いて日常生活に必要な言葉も分かるようになる。</u> 幼稚園においては、生活の中で心を動かし、言葉で伝えたい体験を豊富にもつこと、自分の経験したことや考えたことを自分なりに話すこと、友達や教師の話聞くことなど伝え合う喜びを味わうことが、言葉を使って表現する意欲や態度を育てる上で大切である。</p>	<p>(1) 相手に応じ、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話すことや<u>大事な事を落とさないように聞くことができるようにするとともに、話し合おうとする態度を育てる。</u> 第1節 〔第1学年及び第2学年〕 「A 話すこと・聞くこと」 目 標 児童にとって、<u>話したり聞いたりする言語活動は、日常生活の中で、具体的な相手が必要である。聞き手にとっては、「大事なことを落とさないように聞く」という能力が求められる。話し手の願いや経験に思いを馳せ、話される内容や順序に気を付けながら聞くことによって、伝え合う喜びを実感することが可能となるのである。</u></p>

「話を聞くこと」について（一部抜粋、下線筆者）

	<p>保育所保育指針 (平成11年改定)</p>	<p>幼稚園教育要領 (平成12年4月1日施行) 幼稚園教育要領解説 第2章 ねらい及び内容 第2節 各領域に示す事項 4 言葉の獲得に関する領域「言葉」</p>	<p>小学校学習指導要領 (平成14年4月1日施行) 第1節 国語 〔第1学年及び第2学年〕 小学校学習指導要領解説 国語編 第3章 各領域の目標と内容</p>
<p>内容</p>	<p>第7章 3歳児の保育の内容 4 内容 「言葉」 (5) 興味を持った言葉を、面白 がって聞いたり言ったりす る。 第8章 4歳児の保育の内容 4 内容 「言葉」 (6) 保育士の話を楽しみを持っ て聞いたり、保育士と話した りして、様々な言葉に興味を 持つ。 第9章 5歳児の保育の内容 4 内容 「言葉」 (4) 人の話を注意して聞き、相 手にも分かるように話す。 第10章 6歳児の保育の内容 4 内容 「言葉」 (3) みんなで共通の話題につい て話し合うことを楽しむ。 (5) 人の話を注意して聞き、相 手に分かるように話す。</p>	<p>(1) <u>先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみを もって聞いたり、話したりする。</u> 幼稚園において、幼児が周囲の人々と言葉を交わす ようになるためには、周囲の教師や友達との間にこの ような安心して話せるような雰囲気があることや気軽に 言葉を交わすことができるような信頼関係が成立し ていくことが必要となる。このような言葉を交わすこ とができる基盤が成立していることにより、幼児は、 <u>親しみを感じている教師や友達の話や言葉に興味や関 心を持ち、自分から主体的に聞くようになり、安心し て自分の思いや意志を積極的に言葉などで表現するの である。</u> (4) <u>人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</u> 幼稚園生活では、話を聞く場面がたくさんある。例え ば、教師の説明を聞いたり、絵本を読むのを聞いたり することもあり、遊びの中で友達の要求や考えを聞く こともある。ときには、幼稚園を訪問してきた人々の 話を聞くこともある。 このような場面で幼児が話を聞くときは、初めは静 かに聞いたり、話の内容のすべてを注目して聞いたり しているとは限らない。特に、3歳児は話を聞いてい ても、自分に興味のある事柄しか注目しないこともあ るし、関心のあることが話されるとすぐに反応し、静 かにしていらなくなることもある。また、友達の話を をきちんと聞かないで、友達ともめることもある。 幼児は、このような話を聞くという様々な体験を積 み重ねることを通して、相手が何を伝えようとしてい るのかという、話の内容に注意して話を聞けるようにな っていくのである。</p>	<p>(1) <u>イ 大事な事を落とさない ようにしながら、興 味をもって聞くこと。</u> 第1節 〔第1学年及び第2学年〕 内 容 入門期においては、話 し手と聞き手が一対一と なる活動を中心に置き、 活動経験を積むにつれて 一対複数の活動へ広げて いくことが大切である。 話し手が知らせたいと 思っている事柄を聞くこ とが基本となるので、自 分に知らせたい事は何か という観点で、事柄の順 序を意識しながら、大事 な事を聞き取ることがで きるように指導すること が大切である。 その過程で、「興味を もって聞く」態度を育て ていくようにするのであ る。</p>

「話を聞くこと」について（一部抜粋、下線筆者）

	保育所保育指針 （平成11年改定）	幼稚園教育要領 （平成12年4月1日施行）	小学校学習指導要領解説 国語編 （平成14年4月1日施行）
	<p>第8章 4歳児の保育の内容 5 配慮事項 「言葉」 (1) <u>保育士との間や子ども同士で話す機会を多くし、その中で次第に聞くこと、話すことが楽しめるように配慮する。</u></p> <p>第9章 5歳児の保育の内容 5 配慮事項 「言葉」 (1) 個人差を考慮して、見たこと、聞いたこと、感じたこと、考えたことを言葉で表現できる雰囲気をつくるように配慮する。</p> <p>第10章 6歳児の保育の内容 5 配慮事項 「言葉」 (1) 生活や遊びの中で、言葉の充実を図り、言葉を使って思考することや自分の考えを伝え合う喜びを味わえるようにし、言葉に対する関心が高まるように配慮する。</p>	<p>「言葉」 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、<u>相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。</u></p>	<p>第2章 各学年の目標及び内容 第2節 内容の概説 1 「2 内容」についての概説 「A 話すこと・聞くこと」 イ 聞くことに関する指導事項では、<u>全学年を通して、主体的に聞く態度を養うことが示されている。児童の発達段階を踏まえて、第1学年及び第2学年では、大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くことが示されている。</u></p> <p>第3章 各領域の目標と内容 第1節〔第1学年及び第2学年〕 言語活動 <u>「友達の話聞くこと」では、話し方や内容の量や形式の面だけを意識させると、話し手のよさをとらえることが難しくなるので、話し手の思いや願いに着目しながら、話すことの楽しさを話し手と共有できるようにしたいものである。そのためには、<u>一方的に聞くことばかりでなく、尋ねたり共感したりするなど、双方向的なやりとりの中で聞くことが、この時期の児童には大切なことである。</u></u></p>